

第 66 回神奈川建築コンクール 一般建築物部門最優秀作品選評
「SUPERNOVA KAWASAKI」

審査委員：鈴木 信弘

川崎駅西口再開発用地の南西端部、地上 6 m レベルで回遊する遊歩道デッキの終端に接続された建築である。線路とカーブする道路に挟まれた細長い三角形のいわゆるヘタ地は当初「緑地」として市民に開くことが求められていたと聞く。公募によって採択された「SUPERNOVA KAWASAKI」の提案が実現したことにより、この「場」の質は大きく向上し「好ましい環境」が建築によって生み出せるといった可能性を、十分に示してくれたことが高評価に繋がり最優秀賞として選定された。

建物用途はライブハウスと飲食店である。細長い敷地を活かして開演前に入場待ち客をあえて長い動線によって誘導する工夫、バックヤードを線路側に配置しつつ BOX in BOX の構造によって 500 人の HALL と 150 人のスタジオに対する遮音をクリア、さらに鉄道走行時の電磁波の遮断対策など基本事項を施主・設計者・施工者が一緒になって技術的な試行錯誤を重ねてきたことにも好感が持てた。

閉鎖的で単調になりがちなライブハウスという地上 4 層のヴォリュームを周囲環境にどのように提示・表現するかについては設計者の高い構想力を感じた。かつて宿場町だった川崎の歴史的経緯を調べ、多摩川の氾濫を抑えた「堤防」と街の近代化を支えた「土手」が、人々が思い思いの時間を過ごせる大切な「場所」であったことに気づく。今回の計画をライブハウスから生まれる新たなスターの誕生と日常の憩いを支える新たな「土手」に見立てて、川崎の地形・道路・河川形状から採取した 3 ~ 180 m の円弧のカーブを造形のメタファとしてヴォリュームの操作に利用している。その結果散りばめられた屋上緑地が人の動きを受け止める小さなスケールの居場所となって非常に魅力的であり、閉じることと開くことの両立を見事に集積した丁寧な設計が輝きを持っており来訪者を笑顔にする建築である。